



JASDAQ

平成 29 年 1 月 19 日

各 位

会 社 名 テクノホライズン・ホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 野村 拓伸
(JASDAQ・コード 6629)

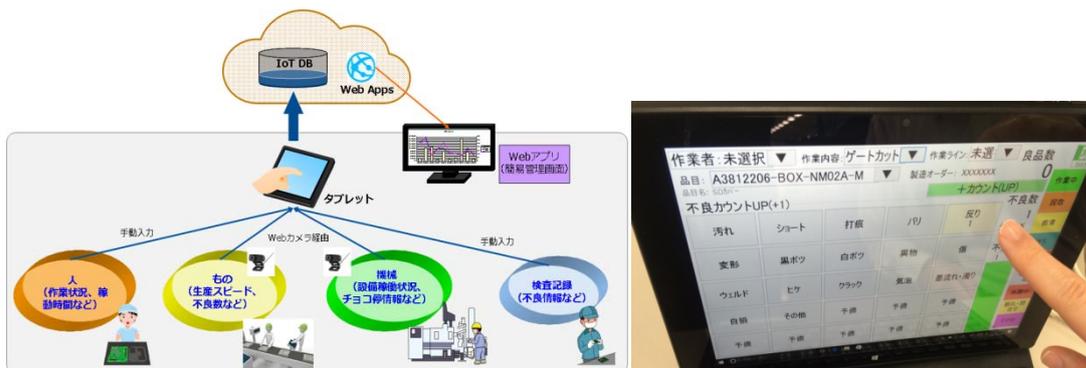
問合せ先
役職・氏名 常務取締役 水上 康
電話 052-823-8551

新製品『工場現場担当者向けタブレットシステム 「タイテック・タブレットコミュニケーター」』発売のお知らせ (当社連結子会社：株式会社タイテック)

当社の連結子会社である株式会社タイテック システムカンパニーは、IoT 時代に対応した『IoT ファクトリーマネジメントソリューション』の開発取り組みのシリーズ第一弾として「タイテック・タブレットコミュニケーター」の平成 29 年 3 月発売を発表することをお知らせいたします。

近年、技術の進歩により製造業においても自動化・デジタル化が進んではいるものの、多くの製造現場では『人』主体でプロセスを回しており、手書き書類や Excel ファイルなどによる情報管理が一般的でした。しかし、こうした作業は効率が悪く、誤入力や二重入力によるトラブルが多く生じるだけでなく、紙や Excel ファイルによる情報共有はタイムラグを招き、IoT 時代で求められているリアルタイム、タイムリーなデータ活用に対応できないことがあります。また、工場現場のオペレーションは作業ごとに様々なスキルと経験が必要でかつ、人手不足によって複数作業を受け持つことが求められています。全工場へひとり 1 台端末を導入するとなると今までは高額な費用が必要となり、生産現場における PC 導入も一部の管理職に限られ、その活用と効果は限定的でした。

こうした状況を変えるべく、セキュリティに優れコストパフォーマンスの高い Windows10 対応のタブレットシステムを開発・製品化しました。



「タイテック・タブレットコミュニケーター」の特長は以下の通りです。

- ①手書き書類やデータの手入力作業などをタッチパネル入力で効率化できる。
- ②入力したデータは日報や各種報告書を自動作成することで大幅な時短と作業効率向上を実現することができる。
- ③作業担当者によって異なる多台持ち作業や、急な交代要員としての対応を支援する作業情報の提供が可能。
- ④全工場作業員一人ひとりに対応したアプリケーションや情報を、タブレットから提供できる。

本タブレットシステムは、株式会社タイテック自社工場および、グループ会社の株式会社中日諏訪オプト電子の成形工場で既に導入され、収集したリアルタイムデータを分析することにより、現場の改善を進めています。

今後は『人』『もの』『機械』の情報と基幹データをクロス分析し、経営判断を支援する機能の実装を進め、IoT 時代における工場経営管理ソリューションとして『IoT ファクトリーマネジメントソリューション』の開発に取り組み、今後も IoT 対応を目指す工場向けソリューションを随時開発・提供していく予定です。

「タイテック・タブレットコミュニケーター」は、一般社団法人インダストリアル・バリューチェーン・イニシアティブ（以下、IVI）（注）の実証実験において、小島プレス工業グループの丸和電子化学株式会社様がそのツールとして導入しています。また、ワーキンググループの実証実験では、IVI プラットフォームのひとつ、富士通株式会社様「ものづくりサービスプラットフォーム」上のコンポーネントとして稼働する予定です。

（注）インダストリアル・バリューチェーン・イニシアティブ（IVI）とは IoT 時代におけるものづくりと IT の融合によって可能となる“つながる”ものづくりを、“ゆるやかな標準”というコンセプトをもとに実現することを目的として平成 27 年 6 月 18 日に設立された製造業を中心としたフォーラムです。

理事長 西岡 靖之様コメント：「IVI は、“つながる”ものづくりを実現するために国内外の製造業やこれを支援する企業、組織、個人の力を結集してさまざまな活動に取り組んでいます。最近では、これまで欧米主導で検討されていた国際標準について、IVRA（IVI Reference Architecture Ver. 1.0）を策定し日本から世界へ提案を行っています。」

平成 28 年 6 月より一般社団法人化し、I H I、オムロン、川崎重工業、キヤノン、神戸製鋼所、小島プレス工業、今野製作所、ダイフク、東芝、トヨタ自動車、豊田中央研究所、ニコン、日本電気、パナソニック、日立製作所、富士通、マツダ、三菱電機、安川電機など、国内外で 150 社以上が参加しており、株式会社タイテックはIVIの正会員です。（敬称略・順不同）

（ホームページ：<https://iv-i.org/>）

詳細につきましては、添付資料『株式会社タイテック システムカンパニープレスリリース：工場現場担当者向けタブレットシステム「タイテック・タブレットコミュニケーター」発売のお知らせ』をご参照ください。

以上

PRESS RELEASE

製造業の現場・管理・経営を全体最適に導く現場力強化ソリューション
『IoT ファクトリーマネジメントソリューション』シリーズ第一弾

工場現場担当者向けタブレットシステム「タイテック・タブレット コミュニケーター」発売のお知らせ

タブレットによるデジタル化時短機能で、人手不足による生産性低下を回避
～Windows10 対応、全工場作業員ひとり1台タブレットによる現場力強化を実現～

テクノホライゾングループ（JASDAQ 証券コード：6629）の株式会社タイテック（本社：名古屋市南区千竈通二丁目13番地1 代表取締役社長：廣瀬 隆志）は、IoT時代に対応した『IoT ファクトリーマネジメントソリューション』の開発に取り組みのシリーズ第一弾として「タイテック・タブレットコミュニケーター」の2017年3月発売を発表します。

近年、技術の進歩により製造業においても自動化・デジタル化が進んではいくものの、多くの製造現場では『人』主体でプロセスを回しており、手書き書類やExcelファイルなどによる情報管理が一般的でした。しかし、こうした作業は効率が悪く、誤入力や二重入力によるトラブルが多く生じるだけでなく、紙やExcelファイルによる情報共有はタイムラグを招き、IoT時代で求められているリアルタイム、タイムリーなデータ活用に対応できないことがあります。また、工場現場のオペレーションは作業ごとに様々なスキルと経験が必要でかつ、人手不足によって複数作業を受け持つことが求められています。全工場へひとり1台端末を導入すると今までは高額な費用が必要となり、生産現場におけるPC導入も一部の管理職に限られ、その活用と効果は限定的でした。

こうした状況を変えるべく、セキュリティに優れコストパフォーマンスの高いWindows10対応のタブレットシステムを開発・製品化しました。



「タイテック・タブレットコミュニケーター」の特長は以下の通りです。

- ①手書き書類やデータの手入力作業などをタッチパネル入力で効率化できる。
- ②入力したデータは日報や各種報告書を自動作成することで大幅な時短と作業効率向上を実現することができる。
- ③作業担当者によって異なる多台持ち作業や、急な交代要員としての対応を支援する作業情報の提供が可能。
- ④全工場作業員一人ひとりに対応したアプリケーションや情報を、タブレットから提供できる。

本タブレットシステムは、株式会社タイテック自社工場および、グループ会社の株式会社中日諏訪オプト電子の成形工場で既に導入され、収集したリアルタイムデータを分析することにより、現場の改善を進めています。

今後は『人』『もの』『機械』の情報と基幹データをクロス分析し、経営判断を支援する機能の実装を進め、IoT時代における工場経営管理ソリューションとして『IoTファクトリーマネジメントソリューション』の開発に取り組み、今後もIoT対応を目指す工場向けソリューションを随時開発・提供していく予定です。

「タイテック・タブレットコミュニケーター」は、一般社団法人インダストリアル・バリューチェーン・イニシアティブ（以下、IVI）*1の実証実験において、小島プレス工業グループの丸和電子化学株式会社とそのツールとして導入しています。また、ワーキンググループの実証実験では、IVIプラットフォームのひとつ、富士通株式会社「ものづくりサービスプラットフォーム」上のコンポーネントとして稼働する予定です。

注*1) インダストリアル・バリューチェーン・イニシアティブ（IVI）とは

IoT時代におけるものづくりとITの融合によって可能となる“つながる”ものづくりを、“ゆるやかな標準”というコンセプトをもとに実現することを目的として2015年6月18日に設立された製造業を中心としたフォーラムです。

理事長 西岡 靖之様コメント:「IVIは、“つながる”ものづくりを実現するために国内外の製造業やこれを支援する企業、組織、個人の力を結集してさまざまな活動に取り組んでいます。最近では、これまで欧米主導で検討されていた国際標準について、IVRA（IVI Reference Architecture Ver.1.0）を策定し日本から世界へ提案を行っています。」

2016年6月より一般社団法人化し、IHI、オムロン、川崎重工業、キヤノン、神戸製鋼所、小島プレス工業、今野製作所、ダイフク、東芝、トヨタ自動車、豊田中央研究所、ニコン、日本電気、パナソニック、日立製作所、富士通、マツダ、三菱電機、安川電機など、国内外で150社以上が参加しており、株式会社タイテックはIVIの正会員です。

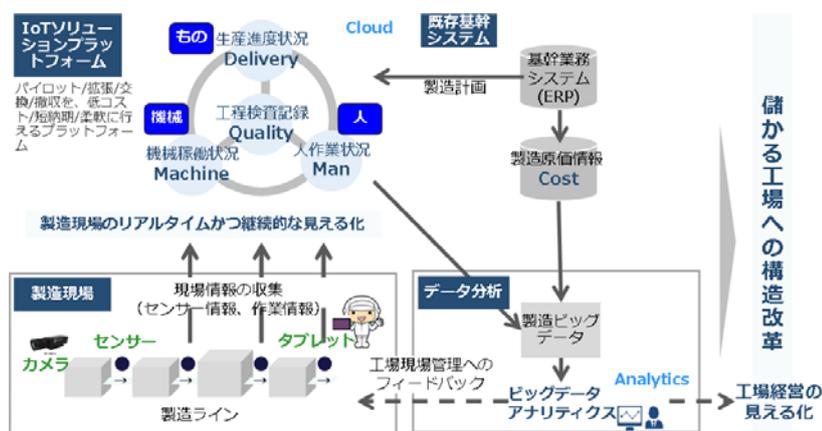
（ホームページ：<https://iv-i.org/>）

添付資料：株式会社タイテック『IoT ファクトリーマネジメントソリューション』

『IoT ファクトリーマネジメントソリューション』は現場データをダイレクトに扱うことにより、ピンポイントで見える化/分析のトライ&エラーを実現でき、低コストかつ、迅速に工場経営を革新できます。

単なる「設備/生産状況の見える化」というソリューションではなく、『人』『もの』『機械』の情報を集約・分析し、現場の改善および、経営判断を支援するソリューションとなります。

【IoT ファクトリーマネジメントソリューション概要】



『IoT ファクトリーマネジメントソリューション』の特長は以下の通りです。

1. 現場と経営のシームレスな連携を実現

現場ニーズを柔軟に反映した見える化の仕組みを実現し、現場の改善を推進します。また、収集したデータを弊社事例ベースの製造 KPI(Key Performance Indication)に適用し、経営者がタイムリーに現場を判断できる仕組みを提供します。

また、現場の改善状況が可視化されるため、現場での改善成果を経営側にアピールすることができるようになります。

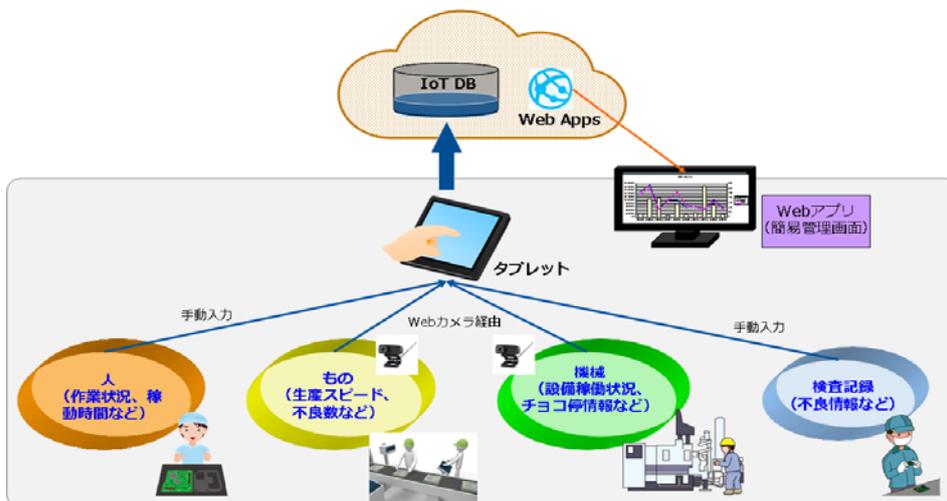
2. 人を中心とした情報収集基盤

日本の製造業では『人』を中心としたプロセスによる生産であり、人の作業を支援・把握する仕組みとしてタブレットを活用します。また、タブレットにカメラを接続し（開発中）、『もの』『機械』の情報も収集します。タブレット(タブレットコミュニケーター)とカメラを使用するため、既存システム/設備への追加改修や新規開発は発生しません。

『人』『もの』『機械』の情報を一度に収集する必要はなく、お客様が必要とされる部分から段階的に導入することが可能です。

※各種センサー（振動、温度など）を使用した情報取得の仕組みも個別開発可能です

【タブレットを活用した情報収集基盤】

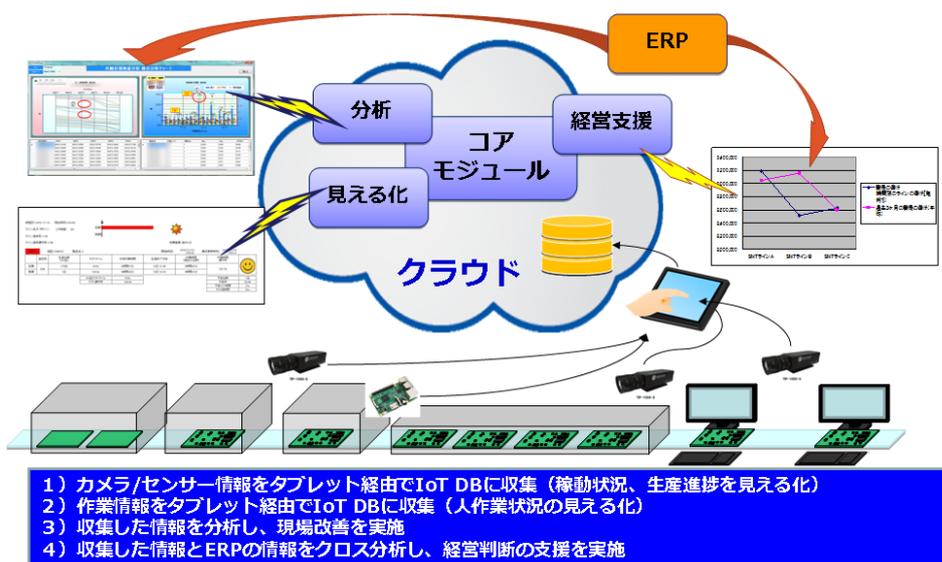


3. 低コストかつ迅速な導入を実現

上記 2.にて収集した現場データを使用して現場改善に役立つ「見える化」および、経営改善に役立つ「分析」の仮説検証を迅速に実施できます。仮説検証での成果を見極めてから順次拡張することが可能です。

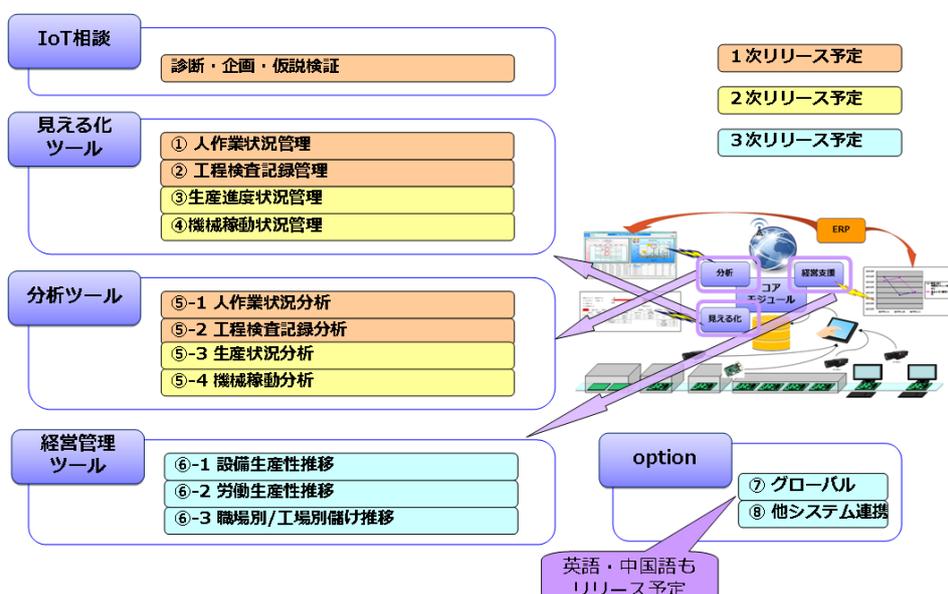
また、IoT ファクトリーマネジメントソリューション基盤はクラウドで稼動するため、必要な機能を迅速かつ柔軟に拡張（縮小）できます。また、海外工場へのタブレット導入により、クラウド経由で現地の見える化・分析を容易に実現できます。

【IoT ファクトリーマネジメントソリューション全体構成】



- 1) カメラ/センサー情報をタブレット経由でIoT DBに収集（稼働状況、生産進捗を見える化）
- 2) 作業情報をタブレット経由でIoT DBに収集（人作業状況の見える化）
- 3) 収集した情報を分析し、現場改善を実施
- 4) 収集した情報とERPの情報をクロス分析し、経営判断の支援を実施

【ソリューション一覧および、リリース予定】



ライセンスはクラウド版/オンプレミス版を上記①～⑧毎に用意し、お客様が必要としているソリューションを選択できるようになっております。(初期費用として「IoT 診断・企画・仮説検証」のコンサルタント費用および、タブレット画面/Web 管理画面の本番カスタマイズ費用は別途発生いたします)

(ご参考) 導入費用 (ハードウェア費用は含まれておりません)

コンサルおよび、導入費用：200万円～ (導入するソリューションおよび、ソリューション数に依存)

ライセンス費用 (クラウド版)：1000円/台・月～、基本使用料10万円/工場・月

(導入するソリューションおよび、導入ソリューション数により
価格が異なります) ※オンプレミス版もあります

販売目標

本ソリューションは2018年度には売上高2億円を目指します。

※2017年度は製品順次リリース段階であるため、2018年度目標を記載しております

【この件に関するお問い合わせ先】

株式会社タイテック システムカンパニー
 担当：鳥居 陽一郎
 電話：052-824-7373 FAX：052-824-7300
 住所：愛知県名古屋市中南区塩屋町1丁目3番地4

* 掲載されている会社名および、製品名は各社の商標または登録商標です。